

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人 伊東学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
農業専門課程	園芸1類学科 花き生産コース	夜・通信	165	160	
	園芸1類学科 野菜生産コース	夜・通信	165	160	
	園芸1類学科 グリーンコーディネートコース	夜・通信	165	160	
	園芸1類学科 フラワーコーディネートコース	夜・通信	165	160	
	園芸1類学科 造園コース	夜・通信	165	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ito.ac.jp/about/#a_info

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人 伊東学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ito.ac.jp/about/#a_info

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 弁護士	令和4年12月 26日～令和6年 12月16日	法務
非常勤	専門学校 元校長 業界団体 元事務局長	令和4年12月 26日～令和6年 12月16日	学校運営・教育内容 の企画・立案
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その際には授業内容だけでなく、授業方法、到達目標、評価方法が適正であるかも検討する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、当該年度の前年度 3 月に作成し、4 月にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。	
授業計画書の公表方法	https://www.ito.ac.jp/about/#a_info
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目とも、学期(前期・後期)ごとの試験によって評価を行う。試験方法は筆記、実技、課題、レポート等があり、単独もしくは複数の方法を総合して評価する。試験方法はシラバスに明記している。試験の結果、最低合格点の 60 点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも 60 点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100～80 点を優、79～70 点を良、69～60 点を可、60 点未満を不可とする。なお、可(60 点)以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の 3 分の 2 の出席がなければならない。出席時数が 3 分の 2 に満たない場合には補講となる。点数と評価の関係および補講に関しては、年度当初に学生に配布する「学生の手引き」に記載している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

下表の通りあらかじめ設定した基準にもとづいて、下表の通り評価、およびGP (Grade Point) を定める。

評価	合格 (単位修得)			不合格
	優	良	可	不可
点数	100-80	79-70	69-60	59-0
GP※	3	2	1	0

以下の式より GPA を算出し、その数値により全学生の成績分布や各学生の相対順位を把握する。

$$\text{GPA} = \frac{[\text{履修した科目の GP} \times \text{その科目の単位数}] \text{の和}}{\text{全履修科目の総単位数}}$$

なお、GPA による成績分布の把握はコース毎ではなく、学年全員の数値による。これは、コースの在籍人数が少なく、数値にも差がない場合にそのコースで下位 4 分の 1 である学生の数値が、別のコースでは下位 4 分の 1 に入らない等の不都合が生じる可能性があるためである。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.ito.ac.jp/about/#a_info (教育指導・卒業認定の方針)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業に際して学生に期待する要件として、

入学時に求めていた素養を、学習によって具体化できること

- ・自らが、花や緑の持つ素晴らしさを楽しむことができること
- ・習得した知識や技術をもって、花と緑の素晴らしさを人々に知らせることができること
- ・同じく、花と緑を使って人に安らぎや癒しを与えることができること
- ・常に向上心と自身の目標に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らないこと

がある。

これらの要件を達成するために本校では、園芸・農業・フラワー・造園等の分野で活躍できる人材を養成すべく、植物に関する基本的な知識、技術をベースに、コースごとでの専門性の高い知識、技術、またビジネスマナーや社会人基礎力についても身につけさせる。それらについては授業科目ごとの筆記、実技、課題等の試験によって理解度および習熟度をはかる。科目ごとに可 (60 点) 以上の評価で単位修得となる。卒業は 2 年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、1 年次、2 年次ともに所定の単位を修得し、学費等の未納がない場合に卒業認定となる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.ito.ac.jp/about/#a_info

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	テクノ・ホルティ園芸専門学校
設置者名	学校法人伊東学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ito.ac.jp/about/#a_info
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門	園芸1類学科 花き生産コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,460 単位時間	645 単位時間	180 単位時間	1,635 単位時間		
			2,460 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人の内数		15人	2人	4人	22人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その際には授業内容だけでなく、授業方法、到達目標、評価方法が適正であるかも検討する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、当該年度の前年度3月に作成し、4月にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>毎年作成しているシラバスに明記した様に、各授業科目とも、学期（前期・後期）ごとの試験によって評価を行う。試験の方法は筆記、実技、課題、レポート等があり、単独もしくは複数の方法を総合して評価する。その結果、最低合格点の60点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも60点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、60点未満を不可とする。なお、可（60点）以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の3分の2の出席がなければならない。出席時数が3分の2に満たない場合には補講となる。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>年次毎に所定の単位数を修得し、学費等の未納がない場合に、進級、および卒業となる。卒業は2年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、1年次、2年次ともに所定の単位を修得し、学費等の未納がない場合に卒業認定となる。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>学習面では、理解度、習熟度が足りない学生に対しては、授業外でも放課後等を使用した個別指導を行う他、学生が自主的に学習できる環境がある。資格取得においても同様である。就職面では、授業だけでなく個別指導に重きを置いて活動を支援している。経済面では、学校独自の奨学金制度だけでなく、公的な奨学金制度の申請の補助等も行う他、授業料等の学費の納入についても随時相談できる。また、担任やコース担当教員との個別面談において、学校生活全般について相談することができる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	3人 (60%)	2人 (40%)
(主な就職、業界等) サボテン相談室、小林花卉、自営			
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導するとともに、マンツーマンでの個別指導も行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 園芸装飾技能士や日本農業技術検定については、2,3級とも毎年高い合格率をあげている。			
(備考)（任意記載事項） その他2名は園芸業界以外の業種への就職を希望。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	1人	7.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個別面談（状況によっては保護者も交える）の実施 クラス担任制、コース担任制による対応		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門	園芸1類学科 野菜生産コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,460 単位時間	645 単位時間	180 単位時間	1,635 単位時間		
		2,460 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人の内数	23人	0人	6人	22人	28人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その際には授業内容だけでなく、授業方法、到達目標、評価方法が適正であるかも検討する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、当該年度の前年度3月に作成し、4月にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>毎年作成しているシラバスに明記した様に、各授業科目とも、学期（前期・後期）ごとの試験によって評価を行う。試験の方法は筆記、実技、課題、レポート等があり、単独もしくは複数の方法を総合して評価する。その結果、最低合格点の60点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも60点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、60点未満を不可とする。なお、可（60点）以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の3分の2の出席がなければならない。出席時数が3分の2に満たない場合には補講となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>年次毎に所定の単位数を修得し、学費等の未納がない場合に、進級、および卒業となる。卒業は2年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、1年次、2年次ともに所定の単位を修得し、学費等の未納がない場合に卒業認定となる。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>学習面では、理解度、習熟度が足りない学生に対しては、授業外でも放課後等を使用した個別指導を行う他、学生が自主的に学習できる環境がある。資格取得においても同様である。就職面では、授業だけでなく個別指導に重きを置いて活動を支援している。経済面では、学校独自の奨学金制度だけでなく、公的な奨学金制度の申請の補助等も行う他、授業料等の学費の納入についても随時相談できる。また、担任やコース担当教員との個別面談において、学校生活全般について相談することができる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	1人 (16.7%)	5人 (83.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 富士ミネラルファーム(株)、かいざわ農園、(株)信州明楽ファーム、白ハト食品工業株			
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導するとともに、マンツーマンでの個別指導も行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 園芸装飾技能士や日本農業技術検定については2,3級とも毎年高い合格率をあげている。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	1人	4.8%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個別面談（状況によっては保護者も交える）の実施 クラス担任制、コース担任制による対応		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門	園芸1類学科 グリーンコーディネート コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,460 単位時間	570 単位時間	150 単位時間	1,740 単位時間		
			2,460 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人の内数	19人	0人	5人	28人	33人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その際には授業内容だけでなく、授業方法、到達目標、評価方法が適正であるかも検討する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、当該年度の前年度3月に作成し、4月にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>毎年作成しているシラバスに明記した様に、各授業科目とも、学期（前期・後期）ごとの試験によって評価を行う。試験の方法は筆記、実技、課題、レポート等があり、単独もしくは複数の方法を総合して評価する。その結果、最低合格点の60点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも60点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、60点未満を不可とする。なお、可（60点）以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の3分の2の出席がなければならない。出席時数が3分の2に満たない場合には補講となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>年次毎に所定の単位数を修得し、学費等の未納がない場合に、進級、および卒業となる。卒業は2年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、1年次、2年次ともに所定の単位を修得し、学費等の未納がない場合に卒業認定となる。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>学習面では、理解度、習熟度が足りない学生に対しては、授業外でも放課後等を使用した個別指導を行う他、学生が自主的に学習できる環境がある。資格取得においても同様である。就職面では、授業だけでなく個別指導に重きを置いて活動を支援している。経済面では、学校独自の奨学金制度だけでなく、公的な奨学金制度の申請の補助等も行う他、授業料等の学費の納入についても随時相談できる。また、担任やコース担当教員との個別面談において、学校生活全般について相談することができる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	6人 (66.7%)	3人 (33.3%)
(主な就職、業界等) (株)ガーデン二賀地、(株)飯倉商事、(株)北本グリーンセンター、新晴園、東武緑地(株)、 (株)日植ガーデン			
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導する とともに、マンツーマンでの個別指導も行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 園芸装飾技能士については2,3級とも毎年高い合格率をあげている。			
(備考)（任意記載事項） その他3名は園芸業界以外の業種への就職を希望。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個別面談（状況によっては保護者も交える）の実施 クラス担任制、コース担任制による対応		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門	園芸1類学科 フラワーコーディネート コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,460 単位時間	405 単位時間		2,055 単位時間		
			2,460 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人の内数	42人	0人	6人	26人	32人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その際には授業内容だけでなく、授業方法、到達目標、評価方法が適正であるかも検討する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、当該年度の前年度3月に作成し、4月にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>毎年作成しているシラバスに明記した様に、各授業科目とも、学期（前期・後期）ごとの試験によって評価を行う。試験の方法は筆記、実技、課題、レポート等があり、単独もしくは複数の方法を総合して評価する。その結果、最低合格点の60点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも60点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、60点未満を不可とする。なお、可（60点）以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の3分の2の出席がなければならない。出席時数が3分の2に満たない場合には補講となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>年次毎に所定の単位数を修得し、学費等の未納がない場合に、進級、および卒業となる。卒業は2年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、1年次、2年次ともに所定の単位を修得し、学費等の未納がない場合に卒業認定となる。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>学習面では、理解度、習熟度が足りない学生に対しては、授業外でも放課後等を使用した個別指導を行う他、学生が自主的に学習できる環境がある。資格取得においても同様である。就職面では、授業だけでなく個別指導に重きを置いて活動を支援している。経済面では、学校独自の奨学金制度だけでなく、公的な奨学金制度の申請の補助等も行う他、授業料等の学費の納入についても随時相談できる。また、担任やコース担当教員との個別面談において、学校生活全般について相談することができる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	15人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) (有)あとリエドリーム、(有)サニベルグリーンハウス、(株)第一花壇、(有)D・Style (株)花門フラワーゲート、(株)ハナプロ、(株)ユー花園、(株)リベルテ、フレッシュはな正(株)、他			
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導するとともに、マンツーマンでの個別指導も行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) フラワー装飾技能士、商品装飾展示技能士、園芸装飾技能士については2,3級とも毎年高い合格率をあげている他、技能五輪全国大会のフラワー装飾部門では毎年出場するだけでなく、上位入賞を果たしている。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	2人	5.6%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個別面談（状況によっては保護者も交える）の実施 クラス担任制、コース担任制による対応		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門	園芸1類学科 造園コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,460 単位時間	540 単位時間	120 単位時間	1,800 単位時間	単位時間	単位時間
		2,460 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人の内数	16人	0人	6人	26人	33人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>継続して行われる科目については、前年度のフィードバック等をもとに、新規で開講する科目については、担当教員だけでなく、外部の意見も取り入れながら専任教員や担当教員で十分な検討を行い、素案を作成する。その際には授業内容だけでなく、授業方法、到達目標、評価方法が適正であるかも検討する。その上で、各科目間との関連や、教育課程編成委員会での外部からの意見、時代の趨勢を考慮する他、各就職分野で必要とされる実践的な内容も取り入れながら調整し、当該年度の前年度3月に作成し、4月にホームページや閲覧で公表するとともに、学生に配布する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>毎年作成しているシラバスに明記した様に、各授業科目とも、学期（前期・後期）ごとの試験によって評価を行う。試験の方法は筆記、実技、課題、レポート等があり、単独もしくは複数の方法を総合して評価する。その結果、最低合格点の60点に満たない場合には再試験を行うが、再試験でも60点に満たない場合には再履修となる。点数と評価の関係は、100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、60点未満を不可とする。なお、可（60点）以上の評価で単位修得となる。また、学生は評価を受けるには科目ごとの授業時数の3分の2の出席がなければならない。出席時数が3分の2に満たない場合には補講となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>年次毎に所定の単位数を修得し、学費等の未納がない場合に、進級、および卒業となる。卒業は2年次末に行われる卒業判定会議において認定されるが、1年次、2年次ともに所定の単位を修得し、学費等の未納がない場合に卒業認定となる。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>学習面では、理解度、習熟度が足りない学生に対しては、授業外でも放課後等を使用した個別指導を行う他、学生が自主的に学習できる環境がある。資格取得においても同様である。就職面では、授業だけでなく個別指導に重きを置いて活動を支援している。経済面では、学校独自の奨学金制度だけでなく、公的な奨学金制度の申請の補助等も行う他、授業料等の学費の納入についても随時相談できる。また、担任やコース担当教員との個別面談において、学校生活全般について相談することができる。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	6人 (85.7%)	1人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 双葉不動産建設(株)、館造園、作庭志稲田(株)、(株)矢口造園、秦造園、自営			
(就職指導内容) ビジネスマナーの授業内で応募書類の書き方、面接での注意点を学生全体に指導するとともに、マンツーマンでの個別指導も行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 造園技能士、園芸装飾技能士については2,3級とも毎年高い合格率をあげている。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個別面談（状況によっては保護者も交える）の実施 クラス担任制、コース担任制による対応		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
園芸1類学科	100,000 円	950,000 円	100,000 円	その他の100,000 円は実験・実習料 (年間)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>○特別奨学金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の資格取得状況に応じて給付するもの ・高等学校在学中の全国大会での受賞や出場に応じて給付するもの ・A0 事前学習のレポート、園芸常識テストの結果に応じて給付するもの <p>○卒業生紹介制度 (卒業生の紹介によって入学した者には入学金の減免)</p> <p>○農場奨学生制度 (校内農場での業務を担うことができる者へ給付)</p> <p>○在校生奨学金制度 (2 年次進級時に一般常識・専門知識の試験結果に応じて給付)</p> <p>○公的な奨学金等の申請、手続補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の修学支援新制度 ・日本学生支援機構奨学金への申請、各種手続補助 ・農業次世代人材投資事業への申請・審査についてのアドバイス 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ito.ac.jp/about/#a_info		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 本校が実施する自己点検・自己評価について、学校外の関係者による評価を行うことにより、客観性、透明性を高めることや学校運営の改善を図ること等を目的とする。主な評価項目として、「教育理念・目標」、「学校運営」、「教育活動」、「教育成果」、「学生支援」があり、評価委員の定数は5名以上とし、業界の関係者(企業等委員)、卒業生で構成している。委員会は年1回開催し、その評価結果については職員会議で教職員が情報共有する。評価結果に基づいた改善方策については自己点検・自己評価委員会の委員長である校長を責任者とし、年度末までには次年度に反映できるように努める。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(公社)園芸文化協会 事務局 (元事務局長)	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
(公財)埼玉県生態系保護協会 会員 テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
(公社)日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー 東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
本校卒業生	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
本校卒業生	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ito.ac.jp/about/#a_info		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ito.ac.jp/about/#a_info
--